

演 題	低栄養状態の改善
副 題	ミニカンファレンスの定着

フリガナ	ツルシリツカイゴロウジンホケンシセツツル
施 設 名	都留市立介護老人保健施設「つる」
フリガナ	カンリエイヨウシ トオヤマミカ
発表者(職名・氏名)	管理栄養士 遠山美佳
フリガナ	ショクインイチドウ
共同研究者	職員一同

【はじめに】

当施設では低栄養状態とされる ALB 値 3.5 以下、BMI18.5 以下で入所される利用者様が年々増えてきている。

低栄養状態でいると共通して、日常生活における活動量の低下、認知機能の低下、感染症や合併症の誘発、免疫力、体力の低下がみられてくる。

低栄養状態の改善にむけ、当施設では3か月に1度、定期的に行われるカンファレンスに加え、その都度、問題がある利用者様に対しミニカンファレンスを行うよう取り組んでいる。

今までは栄養ケアに関する情報は定期カンファレンスの場のみで共有されていたがミニカンファレンスを行う事によって多職種間での情報共有が円滑に行えるようになった。

ミニカンファレンスは申し送り後や、フロアでの短時間で済ませる事により多職種に参加してもらうことが可能になった。また一時的な状況変化時にも多職種間での観察・評価事項により早期から対応が可能となった。

【目的】

今回、低栄養状態と判定した利用者に対し多職種による支援を実施し、アウトカム評価をおこない、低栄養状態の改善がみられるかを検討する。

【対象者および方法】

実施期間：平成28年9月～平成29年2月

対象者：低栄養状態と判定した 34名

方法：対象者にミニカンファレンスで決まった支援を多職種で行い、BMIの変化や摂取エネルギー量を6か月後に評価していく。

【結果】

BMIの改善

BMI18.5以上への改善は5名

低体重のままであるが増加があった方19名

全体のBMIの平均値は16.4⇒17.1へ

褥瘡の改善

褥瘡保有者2名は治癒

食事

食事形態の向上は10名（ムース食からきざみ食：5名、きざみ食から常食：1名、食事量の増加：3名、経管栄養から経口摂取：2名）

【考察】

BMIの改善や褥瘡の治癒、食事形態の向上等に改善がみられたことはミニカンファレンス等の多職種との連携が機能した結果である。

低体重者に対して、無理な食事量の増加は食欲不振に陥るため、補助食品の付加や形態の変更で無理せず栄養量の確保につなげたことから低栄養状態、BMIの改善につながった。

食事形態ではムース食や流動食からきざみ食へ移行できた。咀嚼を行うことにより、筋肉や舌を意識的・反射的に反応させ脳や身体に刺激を与えるので運動機能を高めることができ、ADLの向上にもつながったと考えられる。

低体重者全員がBMI18.5以上とはならなかったが増加傾向のため支援を継続していく。

【課題】

今回、低栄養状態の判定としてBMIを重点にしているが、アルブミン値の測定が、年に1回しか行われていないのが現状である。入所時アルブミン値が低値であった際、状態を把握するために継続して測定できるよう検討していかなければならない。

【まとめ】

必要栄養量を補給してもらうために、口腔内の確認、栄養補助食品の使用、食事形態の変更等、栄養ケアマネジメントを生かした栄養ケアを行い、栄養状態やADLの向上につながったと考えられる。

これからも多職種間でのミニカンファレンスを通じ、個々に寄り添い低栄養状態の改善を継続していき、老健の役割である在宅復帰への支援へとつなげていけるよう努めていきたい。

